

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立勸興小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	81.1	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	83.0	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	94.3	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎学習の課題に対して、自分で課題解決の見通しをもち、取り組む姿勢が見られます。

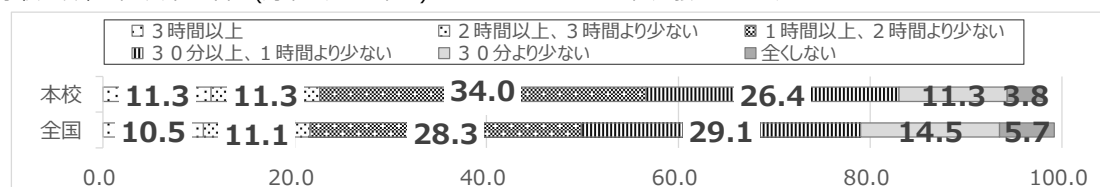
◎対話や協働を通して学びを深めようとする意識も高い傾向が見られます。

●学習したことについて、どんなことが分かったか、何が分からなかったかを整理するに課題が見られる。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	81.1	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	73.6	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	79.3	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	69.9	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	81.1	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	90.5	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎人や社会の役に立ちたいという思いが高く、他者や社会への関心が育っています。

●「将来の夢や目標をもっている」が全国平均を大きく下回っています。

●「地域や社会をよくするために何かしてみたい」が全国平均を大きく下回っています。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.2	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	68.0	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

○学校生活の中で、自他の良さを見つけ、自己肯定感を高めていくことができるような支援が求められます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるよう子ども主体の魅力的な行事、授業づくりの中で子ども同士のつながりを大事にします。

○次の学習への見通しをもつ機会を設ける必要があります。学習を振り返る機会を充実させ、自分に合った学び方を考え、調整する力を育みます。

○地域との関わりの中で、地域への愛情や誇り、所属感を高めていくような取組が必要です。子ども主体の学校行事の伴奏支援に地域の方の力をお借りするとともに、地域の行事に子どもたちが参加するよう促します。

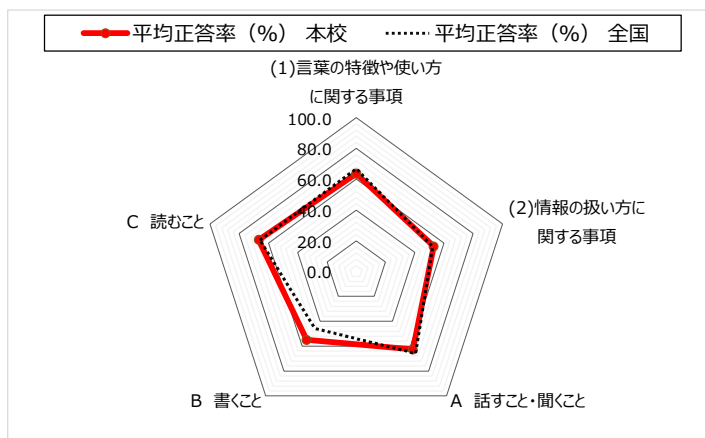
【ご家庭では】

○結果だけでなく挑戦する過程にも目を向け、伴走の姿勢で見守ってください。結果だけでなく、考えたことや挑戦したことにも目を向け、認め励ます声かけをお願いします。

○自立して学習に向かうことができるよう、お子さんの発達段階に応じて声かけをお願いします。3学年以上のお子さんは、自分の家庭学習について「家庭学習計画表」をつくっています。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	63.7	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	52.9	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	62.7	65.8
	B 書くこと	54.9	45.7
	C 読むこと	66.7	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	63.2	61.9
短答式	53.9	62.6
記述式	57.8	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎読み取った内容を基に、自分の考えを整理したり、根拠を明確にして表現したりする力は概ね身についています。

●既習の漢字を文章の中で正しく使う力が全国平均を下回っています。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	86.3	76.7
3 三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	80.4	76.4

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	27.5	45.2
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	35.3	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

○目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

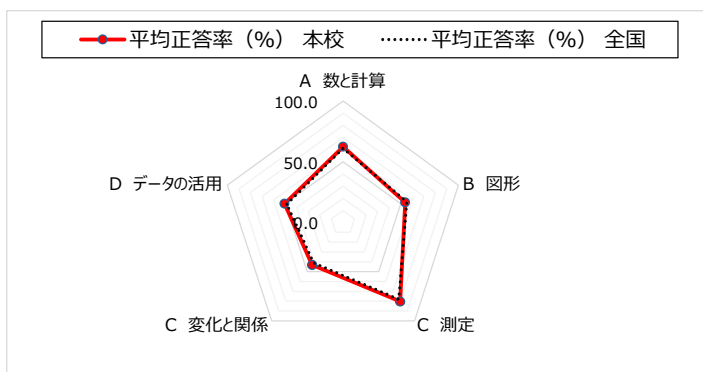
○授業や家庭学習で、同じ漢字を繰り返し練習するだけでなく、文章の中で漢字を使うよう工夫します。

【ご家庭では】

○音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。また、文章の中で言葉や漢字がどのように使われているかを学ぶ機会にもなります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	62.5	61.1
B 図形	53.9	55.3
C 測定	80.4	78.1
C 変化と関係	43.1	41.1
D データの活用	50.5	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	60.4	56.0
短答式	60.0	59.7
記述式	48.4	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎今回の調査では、「図形」を除く全ての領域で問題の平均正答率が、全国平均正答率をやや上回りました。

●「図形」領域の体積の問題につまづきが見られました。また、2次元表から条件に合う数を読み取る問題も正答率が低いという結果になっています。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	100.0	94.5
4 (4)	帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	86.3	74.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4 (3)	2次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	15.7	17.9
1 (3)	体積の意味について理解しているかどうかをみる	33.3	40.1

調査結果を受けて

【学校では】

○「図形」領域については、工作用紙を用いて実際に図形を作成させたり、立体の中に1㎖の立方体を詰める経験をさせたりして、計算だけでは獲得できない量感を大事にした授業を行います。

○算数科だけでなく、社会科や総合的な学習の時間等を用いて、生活場面の中で表やグラフから情報を読み取る機会を設けます。

【ご家庭では】

○算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」等、少し意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。生活場面と算数を結びつける声かけをお願いします。